

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

9月19日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会  
会議録

平成29年9月19日

午前10時00分 開会

午前10時15分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	後藤学
委員	郷右近修	委員	清水義昭
委員	近藤ひろひで	委員	蟹井智行
委員	宮本英彦	委員	ふじえ真理子
委員	近藤善人	委員	鵜飼貞雄
委員	毛受明宏	委員	近藤千鶴
委員	早川直彦	委員	山盛さちえ
委員	月岡修一	委員	近藤郁子
委員	三浦桂司	委員	一色美智子

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議事担当係長 水野美樹 議事課主査 川口真也

4. 説明のため出席した者の職、氏名

議会事務局長 石川晃二 議事課長 鈴木美智雄

5. 傍聴者

一般傍聴者 3名

午前10時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 定刻に御出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可いたします。

（一般傍聴者3名入室）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） これより本日の会議を開きます。

本日の議事につきましては、本特別委員会に付託されました案件につきまして、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

それでは、1、陳情第4号 豊明市議会議員の定数削減を求める陳情を議題といたします。

陳情でありますので直ちに質疑に入りますが、議会事務局は質疑に対してわかる範囲でお答えいただきたいと思います。

質疑のある方、挙手願います。

ごめんなさい、もう一度お聞きします。質疑はありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） では、以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 陳情第4号 豊明市議会議員の定数削減を求める陳情に関して、反対の立場で、不採択か、不採択の立場で……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 静粛に願います。

○郷右近 修委員 不採択の立場で討論をします。

これまで、当特別委員会で何度か発言をさせていただいておるんですけども、これまで20名、現在の定数まで人口はほぼ一定の状況にあるといえる中で削減が続けてこられました。その分多様な市民の多様な意見、とりわけ少数の意見ほど通りづらい状況が生まれてきていると思いき、本来であれば定数は現状からふやしていくべきではないかという考えのもとで、不採択の立場であります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 討論ほかにありませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 それでは、陳情第4号、豊明市議会議員の定数削減を求める陳情書に対し、採択の立場で討論をいたします。

本陳情の要旨は、地域課題は区長等を中心とした市民参画型行政が充実しているのに、議会は高齢化や格差拡大など市の直面する課題に真摯に向き合っていないが、多くの議員は調査検討不足で議論に乏しく、何かちょっと騒がしいんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと静かにしてください。

続けてください。マイクちょっと聞きづらいかもしれませんが、よろしく。

○後藤 学委員 多くの議員は調査検討不足で議論に乏しく、行政提出議案を追認しているのが現状で、5名削減しても議会運営に大きな支障はない。よって、議員定数を現行20名から15名に削減するよう求めるとするものです。

こうした指摘を受けたことはまことに残念ですが、豊明市議会の現状を的確に言いあらわしたのものとして受けとめざるを得ないと思います。

問題は、議員を15名まで減らして市政、議会運営に支障が出ないかということですが、近隣の大府市や日進市では、人口比で見ると同等水準まで既に議員を削減しています。豊明市よりも格段に財政状況がいい両市でさえ実施し、格別問題が生じないばかりか先進的な行政、議会活動を展開しておられる現状を見れば、要はやる気と工夫の問題と思われる。

これまでの議員定数・報酬特別委員会の議論の中で、定数減のデメリットとして3委員会定数の現状維持ができないということが挙げられていますが、陳情にもあるような1人、2人、1人に委員会の兼務や2委員会制のほか、委員外発言の積極的活用、議決権のない市民委員の参加など、幾らでも工夫の余地はあります。また、市民の少数意見が反映されにくくなることも挙げられていましたが、議会の公聴機能を先進議会を見習って拡充したり、市民の陳情や請願へ一層積極的に対応するなど、これも工夫次第で対応できると思います。

市民の中には、定数を減らしても議員の質向上につながらなければ何もならないという意見もあります。これは、議会の徹底した見える化で、資質に欠ける議員がいれば淘汰されるようさらなる議会改革を進めていけばいいと思います。

その他の問題も同様で、議員削減をむしろ議会改革の好機と捉える前向きな対応が必要と考えます。

以上申し上げて、陳情に賛成の討論といたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかに討論ございますか。  
月岡委員。

○月岡修一委員 それでは、陳情第4号 豊明市議会議員の定数削減を求める陳情に不採択の立場で討論申し上げます。

私は長い議員生活の中で3回定数削減に挑んできました。28名から現在の20名まで定数削減に力を注いできましたが、途上の中で、やはり振り返りますと、22名の定数のときが一番理想的だったと、そんな思いでいます。したがって、一貫して私は20名から22名に定数を上げるべきだと、一貫してそういうことを申し上げてきておりますので、この陳情にはどの角度から見ても賛成はできかねますので、不採択といたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかに。  
宮本委員。

○宮本英彦委員 採択の立場で討論をします。

内容を見ますと、従来この委員会で私が発言していた内容がほぼ入っておりますので、逆に不採択する理由がないという。したがって、採択とさせていただきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにございませんか。  
それでは……。

（まだあるの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 それでは、この陳情書に対して不採択の立場で討論いたします。

現在、特別委員会において定数をどうするかということは話し合われている途中であり、この陳情は15名に削減すると、もう数字も挙げて明確にこの定数削減を求めているものです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと、静粛にお願いします。

○富永秀一委員 ここで結論を出してしまうということは、特別委員会の今後の議論を意味のないものにしてしまうと考えますので、不採択といたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。  
早川委員。

○早川直彦委員 私は採択の立場で討論させていただきます。

今、富永委員から、今ここで採択すると今後に影響するという意見もありましたが、私は今、この段階でのこれを読んだ気持ちで討論させていただきます。まだ、今後、勉強会とか最終的に決めていく仮定の中でまだ変わる可能性もありますので、今現状とし

での立場で説明させていただきます。

書いてある内容は、本当に真摯に受けとめなきゃいけないのかなというふうに思っております。私としては減らすべきという考えは前から伝えておりますので、やはり近隣の市町も含めれば、後藤委員の説明でもありましたが減らすべきというふうに考えております。

また、一番下のところには、陳情に議員報酬のアップは必要だとありますが、今こういう御時勢で議員のほうから報酬を上げるということは難しいのかなと思っております。しかしながら、私としては現状より下げるということは、前からも言っておりますが、そういうことは考えておりませんので、議員の仕事ぶりというものを市民の皆さんがわかっただけであれば、その状況、状況で変わってくるものだというふうに思っております。

以上であります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

一色委員。

○一色美智子委員 陳情第4号 豊明市議会議員定数削減を求める陳情に対しまして、不採択と立場をとらせていただきます。

議員定数に関しましても、下げたほうがよい、上げたほうがよい、現状のままでよいと色々な意見があると思います。この陳情に対しまして、現実には15名という数字が出されておりますので、それに対して今委員会でも、特別委員会のほうでもやっておりますので、現状に対して15名というものはいかがなものかなと思います。将来的に住民自治を進める上で、住民に対する裏切り、背信行為にならなければと思いますので、不採択とさせていただきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありますか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 陳情第4号に対して、不採択の立場で討論いたします。

趣旨の内容、陳情の内容はわかるんですが、当然、近隣市町も定数削減に対しての前向きな取り組みをされております。そういったところは重々理解しておるんですが、何分今現在、特別委員会を立ち上げて話を、議論をしている最中ですので、今この陳情を採択してしまうと、特別委員会自体の意義を否定することになりますので、そういった内容から不採択とさせていただきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 陳情第4号 豊明市議会議員の定数削減を求める陳情には不採択としたと思います。

今、特別委員会進行中ですので、この陳情を採択してしまうということは今後の特別委員会があんまり意味のないものになってしまうということが1つ。それから、定数に絡めて報酬についても検討しているというようなこともございますので、今の時点ではこれは不採択ということにさせていただきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにございませんか。  
ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 陳情第4号に対して採択の立場で討論します。

私は削減はすべきというのはずっと前から変わっておりません。行く行くは小さな政府を目指していくべきだという考えに立っています。であれば、議会も行政も、議会も範を示すべきだという考えです。自治の、市民自治の力がついてこれば、またそういうシステムをつくり上げていけば、議員の数が減っても市民の皆さんの声は直接届く、そういうシステムをつくっていくことが大事だと考えています。

あとは、陳情の最後の2行にあります、ちょっと報酬のことに触れられているんですが、ここについては、賛成しかねる部分はあるんですが、この趣旨にあります……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 静粛に。

○ふじえ真理子委員 趣旨にあります議員の定数を現行の20名から15名に削減するよう求めるということに対しては賛成といたします。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 議員定数を現行の20人から15人に削減を求める陳情について、採択の立場をとらせていただきます。

その大きな理由は、やはり最初に数字をきちっと掲げて、そのために市民の声を直接行政に届ける、あるいは議会がそれを受けとめる、そういった仕組みをつくっていくことはとても重要なことだと考えるからです。いろんなことをやって、結果として少なくともよかったねではなくて、そのために何を私たちはすべきか、行政に何をさせるべきか、そういった議論のスタートに立てるといふふうに考えています。

今、確かに皆さんおっしゃるとおり特別委員会で議論をしているところで、この15という数字についてはいろいろ考えはあろうかと思いますが、まずは目標を立てて努力をするという、そういったスタート地点に立ちたいと私は考えておりますので、賛成の立場をとらせていただきます。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかにございませんか。

(進行の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 以上で討論を終結し、採決に入ります。

陳情第4号は採択すべきものと決することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 賛成者5名。よって、賛成少数であります。よって、陳情第4号は、もう一遍言いますが、賛成少数により不採択すべきものと決しました。

以上で、本特別委員会に付託されました案件の審査は終了いたしました。

お諮りいたします。委員会報告書については私に一任願えますか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ありがとうございます。

委員会報告書については、例に従い提出させていただきます。

慎重な審査、御苦労さまでした。

以上をもちまして、豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を閉会とします。閉会をいたします。

午前10時15分閉会